

～異常気象に強いコメづくりの実践～ 適正な田植えと水管理で、初期生育確保！

ここがポイント！！

- 1 田植えは、品種に応じた栽植密度とし、1株当たり3～4本で植える。
- 2 活着までは水深3～4cm、活着後は2～3cmのやや浅水管理とする。
- 3 除草剤は適期を逃さず散布し、散布後は湛水状態を保つ

1 田植え作業（早植え注意！）

（1）田植え日

- ア 発根・活着を良好にするため、極端な早植えを避けて好天日に田植えをする。
- イ 登熟期間の高温による品質低下を避けるため、コシヒカリの田植えは5月10日以降を基本とする。突発的な異常高温等による品質低下のリスクを分散する観点から、移植時期の分散を併せて進める。

（2）栽植密度、植え付け本数

- ア 籾数を適正に制御し、品質低下を防ぐため、コシヒカリの栽植密度は平坦地で50株/坪、山間地で50～60株/坪を基準とする。
- イ その他の品種の栽植密度は50～60株/坪を基準とし、品種の特性、移植時期や土壌の肥沃度により調節する。
- ウ 過繁茂、細莖化による倒伏や品質低下を避けるため、植え込み本数は1株当たり3～4本となるよう、掻き取り量を調節する。
- エ 下位分げつの発生を促進するため、植え付け深さは2～3cmとする。

2 田植えから中干しまでの水管理

- （1）水温が高いほど発根・活着が早いので漏水を防止し、田植え後は水温の上昇に努める。
- （2）田植え後から活着するまで（田植え後7～10日間位）は水深3～4cmの保温的管理とする。低温や強風の場合は、植え傷みを避けるため4～5cm程度のやや深水とする。
- （3）下位分げつの発生を促すため、活着後は2～3cmのやや浅水とする。
- （4）水を更新する場合は、水温の上昇を図るため早朝にかん水し、日中は止水とする。

(5) ワキや藻・表層剥離が大量発生する前に、早めに水の入替えや夜間落水をする。

3 除草剤の効果を最大限に発揮

(1) 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均平にしておく。

(2) 一発処理剤の使用を基本とする。初期剤を使用する場合は、河川などへの流出を防止するため、田植え前には散布せず、田植え時または田植え後に散布する。

(3) 処理晩限に近い散布では雑草が残りやすいので、雑草の葉齢をよく確認し、散布適期の範囲で早めの散布を心がける。

(4) 散布時の水深は3～5 cm 程度を確保する（フロアブル剤、ジャンボ剤及び豆つぶ剤は5～6 cm）。処理後7日間は止水とし、4～5日間は湛水状態を保つ。

(5) 自然減水により早期に田面が露出する場合は、処理層を壊さないように静かに入水する。

(6) 農薬使用は製品ラベルに記載されている使用基準や注意事項、使用方法をよく読み、内容を遵守する。

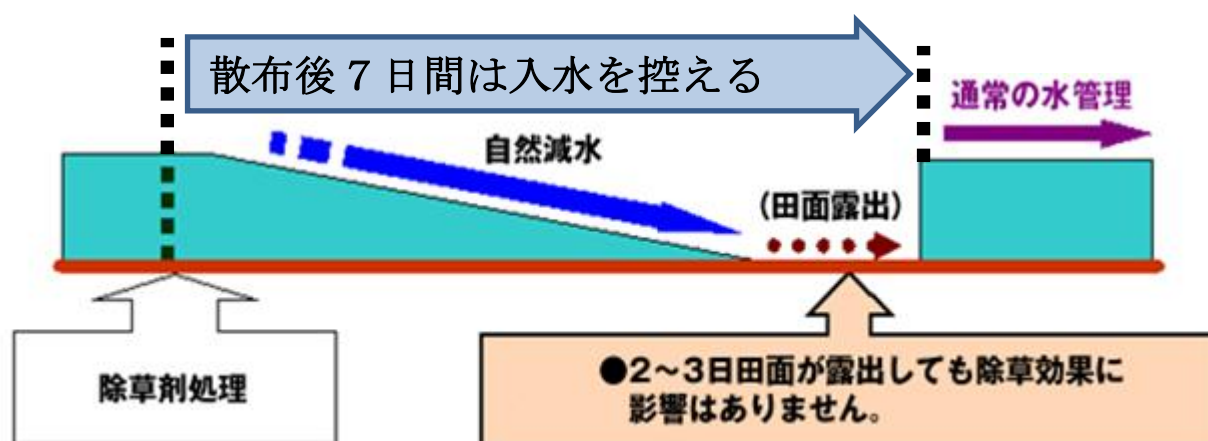


図1 除草剤散布の水管理のイメージ

4 新之助栽培のポイント

(1) 田植えは稚苗植えて5月中旬頃をめやすとする。

(2) 適正な生育量に制御するため、栽植密度は50株/坪を基準とする。

(3) 前年と作付品種の異なるほ場では、漏生粳由来の米が製品に混入しないよう除草剤等による異品種混入防止対策を実施する。

(4) 葉いもち防除（箱施用または水面施用）は、必ず実施する。

メールマガジン登録募集中！

気象や生育状況に基づいた水稻栽培のポイントやフェーン等緊急対応に関する情報をお届けします。

ngt112130@pref.niigata.lg.jp

こちらからもメールできます↑

※件名に「水稻情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」「住所」「電話番号」をご記入ください。



